

最近とみに、乗合自動車、地下鉄などに、車椅子に乗りたる姿を見かくること多し。誠に結構なれど、いささか気になることあり。そは、車椅子に乗る者も、介護の者も、一言のお礼も言わざることなり。車掌あるいは乗務員の手を借りて、乗り込むときも、降りるときも、黙せしままなり。傍から見て不快なる気持ちを禁じ得ず。何故、人の手を煩はし、世話になりながら、感謝の意を表せざる。聞くところによれば、障害者をして卑屈ならざらしめむがためなりと。されど、さは理を盡したりと言ふを得ざらむ。礼を言はぬは、あたかも特権階級の如き振る舞ひなり。障害の有無にかかはらず、人の世話になりたる時、人の手を煩はせたる時に謝意を表すは、ごく当たり前なり。そは普通の人間の礼儀ならずや。障害者も健常者も同じ人間なり、平等なり。挨拶や礼儀もまた、障害者も健常者も、同様にわきまふべきなり。しかうしてこそ、真に対等なる人間関係を築くを得め。